

2011-12 年度テーマ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー会長：カルヤン・パネルジー
第 2570 地区ガバナー：立原 雅夫

会長：鯨井 郁男
幹事：庄内 邦雄

会長エクト：堀越 真
副幹事：浅井 純次 SAA：橋本 篤史
TEL：048-525-7907 FAX：048-526-2471

URL：http:// www.kuma-west-rc.com/ E-mail：post@kuma-west-rc.com

No.29 第 1669 回 例会 (H24.3.5)

司会 橋本 篤史 SAA
点鐘 鯨井会長
ソング 『君が代』
『奉仕の理想』

会長挨拶

鯨井会長



今月は識字率向上月間です。このことについてインターネットにて調べてみました。1986 年以来、国際ロータリーの強調事項です。以前は毎年 7 月を識字率向上月間と定められていましたが 2006～07 年度より 3 月に移行しました。ユネスコの推計によれば、世界で 15 歳以上の 8 億人の人々が基本的な読み書き能力がなく、この割合は 1990 年以降ほぼ変わっていないようです。読み書き・計算能力が社会に与える恩恵は、議論の余地がありません。識字社会では、経済発展もより速やかであるのが一般的です。また、読み書き能力のある人々の方が、地域社会の健康問題について認識しているため、一般的により健康であると言えます。そして女性にとって、読み書きと簡単な計算を行なう能力は、教育的、社会的、経済的機会への扉を開く可能性があるといわれています。私は建築設計の仕事をしておりますが、関係の有る記事がありましたので紹介します。フィリピンの貧しい田舎で、火事が 3 部屋から成る小学校を焼き尽くしてしまった時、ロータリー・クラブは、援助に

介入しました。クラブの建築家、エンジニアおよび建築専門家が、現場を検査し、仕様書を作成し、学校の再建にかかる費用の見積もりを出しました。全クラブ会員およびその家族が、プログラムの資金調達に努力しました。なかには、材木、セメント、ペンキ、窓、ドアを寄付した会員もいました。地域住民とクラブ会員が一体となって学校を再建し、教育が地域社会の社会経済的ニーズの永久的解決をもたらすという彼らの信念を例示したのです。

委員会報告

出席報告

加藤 恭保委員

| 例会日 | 総数 | 出席免除 | 欠席者 | 出席率 | メークアップ |
|-----|----|-------|-----|-------|--------|
| 3/5 | 20 | 7 (1) | 5 | 57.5% | 0 |

ニコニコBOX委員会

ニコニコボックス拠金報告

加藤 恭保委員

| 例会日 | | 件数 | 金額 |
|-----|-------|-------|-----------|
| 3/5 | 本日の報告 | 3 件 | 3,000 円 |
| | 本年度累計 | 182 件 | 271,000 円 |

鯨井 邦男さん

田代パスト本日は卓話宜しくお願ひします。

橋本 篤史さん

田代パスト本日はよろしくお願ひいたします。

高橋 孝夫さん

田代パスト本日は卓話楽しみにしております。



パスト会長卓話

田代パスト会長

(平成24年4月2日)



『感動する心』を育てる

「感動した」という言葉は、テレビのスポーツ番組を見ているときに度々聞くことがあります。さらに壮大な自然現象、動植物の生存をかけた営み、人が作る芸術作品、最先端の科学技術等々も我々に感動を与えてくれます。これらは全く興味のない人を除いて、他のほとんどの人は感動するであろう、いわば絶対的感動事項、普遍的感動事項ともいえるものです。しかしそれ以外にも、ある人にとっては感動的な事項なのですが、他の多くの人にとっては全く感動しない、興味がない、理解できないという事項もあります。「感動する人」と「感動しない人」では研究者、芸術家だけでなく企業経営者にとってもその業績に大きな差となって顕われると思います。「感動する人」になるには、「感動する心」を持たなければなりません。その為には感動する出来事に多く接する事も大切ですが、普段から「感動する心」を育てる努力、育てる訓練、感動する出来事を見つける努力、探す努力が必要です。ある二つの新聞記事を紹介しますが、皆さんの感想はいかがでしょう。

一つ目は、女優の星野知子さんが、新潟県中越地震を特集したテレビ番組で三宅島の平野祐康村長とご一緒した時のコメントです。『番組の最後に司会者が平野村長に30秒のまとめのコメントを依頼した。星野さんは「たった30秒で、それも生放送の最後でやるのは素人の方に出来るものではない」と心配したが村長はきちんと30秒で話をまとめた。星野さんは素晴らしいと思うとともに、噴火以来、数多くのテレビ番組で島民の現状と将来を語り続けて来た4年半という長さ苦勞が偲ばれた』と書いています。この記事を読んで星野知子さんという人の推察力、感受性の強さに私は感動しました。

二つ目は、今年うるう年ですが、その説明をした記事に載っていた図表に感動しました。小学校の頃より4年に一回のうるう年がなぜ必要なのかは習っていましたが、この図表にはとても説得力があり、一目瞭然でした。ある事象を図式化することはよくあることですが、工夫次第ではもっと解り易いものになる、そしてしなければならないと感じました。

感動することは興味を持つことに、そして疑問を持つことに繋がると思います。企業の経営においても、与えられた問題に対処し、解決することは出来ても、何が問題なのかを見つけることは難しいものです。その「問題を見つけること」と「感動を見つけること」には何か共通点がありそうです。ロータリー活動で見つける小さな感動が、企業経営の問題点を見つけるヒントになるかもしれません。